

若者の夢をかなえる“格格屋”

上海駐在員事務所

秘書 王一

上海には小物や雑貨、化粧品などを扱うお店がたくさんあります。その中でも 80 年代、90 年代生まれの若者に人気がある「格格屋」¹という名前のお店をご紹介します。

「格格屋」は上海市内の大学や地下鉄周辺に多く、広さは 20 m²程度です。お店の中に入ると 1 区画 50cm 四方程度の棚が 200～300 並んでおり、そこには様々な商品が陳列されています。商品は文房具、おもちゃ、化粧品、ファッション小物などが多く、値段は 100 元（約 1,400 円）以下のものばかりです。「格格屋」の商品はお店が仕入れたものではなく、棚の「格主」（オーナー）と呼ばれる人たちが自身で仕入れたものです。「格主」はお店に棚使用料を支払い商品の販売を委託しています。棚使用料は月に 150 元～300 元（約 2,100 円～4,200 円）程度です。

それではどういう人たちが「格主」になっているのでしょうか。「格主」になっている人たちはインターネットで物を販売している若者が多いようです。彼らは「格格屋」を利用することでインターネットでしか販売できなかった商品を実際の店舗でも販売することが可能になりました。若者の中には会社で働きながら兼業として「格主」になった人がいます。「格格屋」では店員が「格主」の棚の管理や商品の販売を行います。そのため働いている若者でも「格主」になることが可能になっているのです。また、大学を卒業したばかりの新卒者で「格主」になった人もいます。大学を卒業して自分のお店を持ちたいと考えても上海のような大都市では店舗の家賃が高いため自分の力で家賃を払う事が困難です。そのため店舗の棚を借り「格主」になって自分の商品を販売しています。このような若者は「格主」になることで小さいながらも自分のお店を持つという夢をかなえているようです。

「格格屋」のパンフレットによれば上海市内に「格格屋」は 30 店舗あるようです。今後の店舗展開がどうなっていくか予測できませんが、「格格屋」によって店舗を手に入れた「格主」が、これからますます魅力的な商品を販売することを期待しています。

< 格格屋 >



< 格格屋の商品棚 >



¹ 中国語で「格子」は棚の意味であることから店名を「格格屋」としたものの。